

# 令和元年度第2回学校運営協議会（議事録）

進行 事務局

## 1 開 会

### (1) 会長挨拶（板垣勝雄会長）

- ・学校運営協議会研修会について
- ・保幼小中の接続について
- ・教員志望者の減少について
- ・学習指導要領の完全実施に伴って
- ・学校運営協議会の委員交代について

### (2) 校長挨拶（親跡久樹校長）

- ・1年生で飼育するヤギと生活・総合のねらいについて
- ・先生方をお願いしていることについて
- ・業務改善について

## 2 議 事（議長：板垣 勝雄 会長）

### (1) 1学期末学校評価について…小島教頭

\*議事に先立ち、スライドで夏休み明けの学校の様子を紹介

- ・全国学テの結果もたいへん良い数値であった。
- ・「人権教育、同和教育」に関連して、子どもたちだけではなく、保護者も参加する形での同和問題学習を計画している。

#### 【あいさつについて】

- ➡決められた時刻に就寝したり、起床したりすることができていないと読み取れる。PTAでも呼び掛けるが、学校からも保護者の啓発に努めてほしい。メディアについても同様。「約束を決めましょう」だけでなく、どのような約束を決めたのかを問うくらいであってほしい。あいさつについても、数値は上がっているが、実態としてはまだまだである。元気なあいさつができるようになってほしいと思う。
- ➡「あいさつしましょうね」という大人が、しっかりとあいさつすることができないのが問題である。基本は家庭にあることをもっとアピールしなくてはならない。
- ➡育成会議としても、幟旗などを立て、それに取り組んでいる。
- ➡そのとおりだ。でも、幟旗を立てること以上に、普段からの心掛けが必要だ。
- ➡PTAでも、いろいろな角度から進めていきたい。
- ➡「繰り返し」の取組と声掛けが必要である。

### 【アンケート項目の変更と子どもたちへの周知について】

#### ➡児童・保護者へのアンケート項目が変わっているが？

・従来のものは項目数が非常多かったこともあり、今年度、学校評価アンケートの見直しを行った。なお、内容については中学校区で共通している。

#### ➡この数値は子どもたちに示されているか？

・示していない

#### ➡中・高学年には示した方が良いと考える。それによって自分にできることを考えて、実際に取り組んでいくことが大切だろう。健康・体力づくりの生活習慣改善などに、子どもたちが自発的に取り組む機会としていくべきではないか？

・生活習慣改善については「生活リズム強調週間」にて取り組んでいる。データを伝えて考えさせていくことも検討していきたい。

#### ➡良いデータもある。こちら合わせて伝えてほしい。

### 【生活リズムについて】

#### ➡メディア時間は2時間と定めているが、それ以外の時間、子どもたちは何をして過ごしているのだろうか？現実問題として、ルールを破っているのではないかと危惧している。特に夏休みなど、休みの日。掛け声倒れになってはいないだろうか？実際はどうか？

#### ➡「生活リズム強調週間」の間は良い。あと、友達の前でも良い。よく見られたいという思いもあるのだろう。だが、そうでないと…。

#### ➡個々の子どもによるのでは？本を読んだり、絵をかいたり、ペットと遊んだり…。メディア以外に向かうものがある子は違うようだ。

#### ➡メディアと言ってもゲームばかりでもない。ニュースなども見ているようだ。

#### ➡土日の少年野球など、子どもたちが夢中になれるものを見出せるか、また大人が準備できるかが大切ではないかと感じている。子どもがというよりも、大人がやらなくてはならないことが増えてきているように感じている。子どもではなく大人がしっかりとできるかが大切なのだろう。

#### ➡夏休み中、岩木1丁目町内会館を開放した。前半は周知不足で利用者が少なかった。回覧板の内容を子どもに伝えない、そもそも読んでいないという大人の方に問題がある。後半、増えてきたのは幸い。宿題をする時間を1時間程度確保し、あとは大人が見守った上での自由な時間にしている。

・この問題は学校がどこまで関わるかが難しい。基本的に家庭生活のことである。だが、依存症になることはその子にとって大きな問題となることから、学校としても啓発する必要がある。難しいのは、家庭生活のことを禁止するのは限界があり、呼び掛け程度となってしまう。

#### ➡この問題は答えの出ない問題であるが、学校からも声掛けをしていただき、地域としても取り組んでいきたい。

### 【学習について】

#### ➡「なぜ間違えたのか、分からないまま…」だということがなくなるようにして行ってほしい。

そのためにも、低学年からの問い掛け方が重要である。この意見に対して、しっかりと正対して行ってほしい。

・「いいですか?」「はい!」の形はダメであると先生方には伝えてきた。授業改善の一環として、さらに対応していく。

➡通級指導教室について、春日小の現状は?

・春日小では空き教室がないため設置できない。そのため、他校にある通級指導教室への通級となっている。

➡教員の人員配置とも関連し、前年からの計画的な取り組みが必要な事項である。

➡空き教室ということもあるが、何よりも子どもの特性に応じるためには、有田小のような設備が必要となる。

➡効果があることが分かっているのであれば、行政はどのように取り組んでいるのかということになる。

・あわせて、指導者育成の問題もある。

➡できる学校とそうでない学校があるというのは、気になるところだ。

【設備面について】

➡匂いに関する指摘があったが、トイレや玄関の匂いによる健康被害はないか?

・それはない。ただし、実態としては匂いがある。スペースの問題もある。職員作業でも尿石落としなどできれいにはしているが、どうしても老朽化があって…。

➡そんなに問題があるとは思えない。子どもたちもしっかりと掃除に臨んでいる。これは個々の捉え方ではないだろうか?

(2) 2学期の学校支援・地域連携について…荒井主幹教諭（要項参照）

① 2学期の支援要望について

② 春日中学校区あいさつ運動について

➡10月10日は全市が一斉に取り組むことで、機運を盛り上げるきっかけとしたい。なお、地域交流の一環として取り組んでいる内容でもある。

③ 子ども祭り 一品バザーについて

(3) 業務改善の取組について…親跡校長

業務改善については「あれもやめる。これもやめる」ということではない。改善の意識を持ち続けることが大切だ。特に、悩んでいる子どものために力を注げる体制づくり。子どものことを考え、準備する時間を確保することが必要だと考えている。来年度のことを4月になってから伝えても間に合わない。早めに周知したいと考えている。主なところでは、体育祭をリージョンプラザで開催する。会場の変更に伴い、保護者にも納得いただける内容が求められると考える。各種大会との兼ね合いもあり平日開催となるが、保護者の願いも考慮して金管発表の機会確保も考えている。音楽フェスティバルについては、来年度、上越文化会館が改修となる。このような物理的問題もあって、次年度は体育館開催を検討している。5年生修学旅行は東京オリンピックの

関係で従来通りの実施は不可能である。現在、検討しているところ。実施時期をずらすことも含め、これからしっかりと熟議していく。なお、4月の行事や校時表についても改善を検討している。春日小に限らず、体育祭の終了後に問題行動が増えるという実態がある。体育祭の完成度を高めるために教師による指導中心になることや、4月からの詰まった日程による影響があると言われている。なお、学校だけで全てを進めることはしない。地域との関係性を崩さぬように、丁寧に進めていきたい。

➡PTAでも業務改善について協議をしている。その一環として、教職員歓送迎会も取りやめる方向で動いている。委員の皆さんにもご理解をいただきたい。

#### (4) その他

##### 【エアコン設置と夏休みの短縮について】

➡学校にエアコンを設置することができた。そうすると、保護者の間で話題となっているのが夏休みの短縮化。実際のところどうなのか？

- ・今のところありません。ですが、将来的には分かりません。

##### 【家庭と学校の連携について】

➡どうしてもネガティブな回答をする子がいる。学校の取組にも限界があるのでは？

- ・家庭環境が絡むと学校が入れない。そこで、外部機関と連携しながら取り組んでいる。そのような会議が増えてきていることは実際にある。
- ・教委では高校生の「引きこもり」によやくメスが入ったところだ。

➡別の会でも「高校生の引きこもり」について話題となった。結果としては「早め早め」の対応が大切となり、さらに小学校や中学校の負担が増えていくのだろうなと感じた。さまざまな問題をどこで引き受けるのか？地域代表としても考え込んでしまう。

- ・特別な支援を要する児童に対しては、市（すこやか）とも連携している。だが、その数が多く、対応に苦勞している状況。各園とすこやか、学校とすこやかという形で対応している。

➡このような実態は、表には出にくいところもあり、皆さんは知らないのだろう。好例もあるのだが、基本としてもものすごい労力を掛けなければならない。

### 3 連絡・報告事項

#### (1) 県学校運営協議会研修会報告…角張委員

新井ふれあい会館にて全県より200名近くが参加して開催された。第1部の妙高市の取組の実践発表では、妙高型CSについての説明を受けた。地域住民が、気兼ねなく学校に来ることができるような学校づくりを目指しているとのこと。当校に参考となりそうなのは、地域・家庭・学校が子どもを中心につながり合う仕組みづくりを進めるには…という視点。さらに、PDCAサイクルを大切にしていくためには…という視点である。どのように地域に根付かせていくのかということについて考えさせられた。

第2部の文科省の講演では、連携・協働についても講演であった。第3部は情報交換であったが時間が少なく紹介のみ。従来の学校支援活動が主で、CS本来の働きについて考えていることはなかったように思える。目先の「支援」を第一に考える傾向があるが、本当にCSがやらなく

てはならないことをしっかりと捉えておかななくてはならないと感じた。

(2) 保幼小懇談会報告…荒井主幹教諭 要項参照

(3) 学校運営協議会の日程について…小島教頭 要項参照

(4) その他

➡事前に詳細な資料を頂いているが、「協議テーマ」を定めてはいただけないだろうか？資料からの思い付きを語るのも良いが、深めることを考えるのであれば必要だと感じる。

## 4 閉会

(1) 副会長挨拶 (山谷由美子副会長)

様々なことが変わっていく時期なのだろうなと感じている。それに伴い、保護者もいろいろと考えている様子。「子どもたちのため」という学校の意図がしっかりと伝わるようお願いしたい。